

道路政策の質の向上に資する技術研究開発

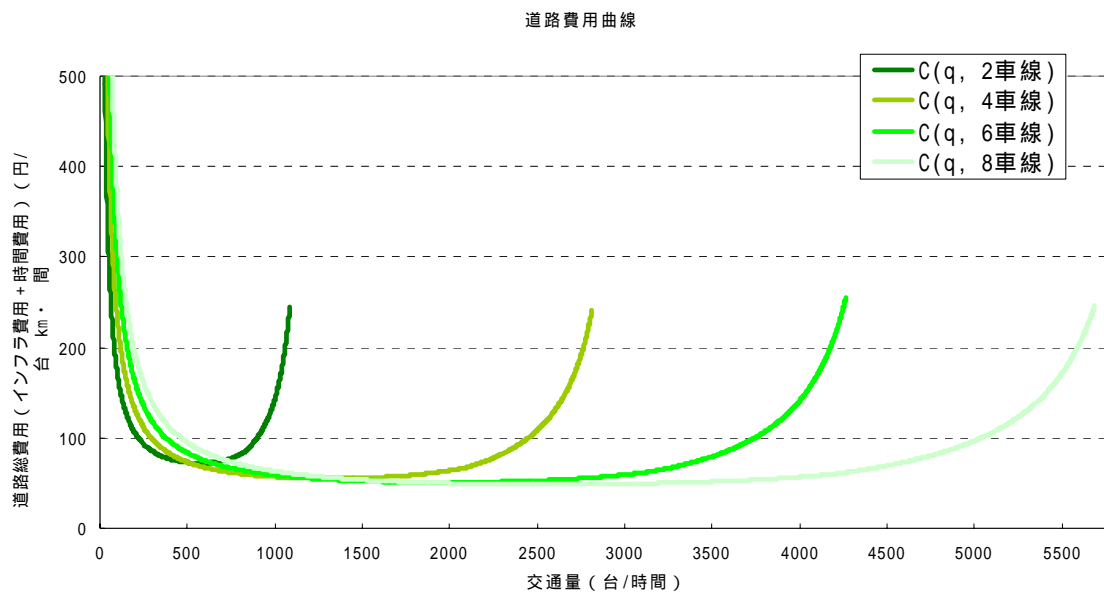
【研究状況報告書（1年目の研究課題対象）】

研究代表者	氏名（ふりがな）		所属		役職	
	根本 敏則（ねもと としのり）		一橋大学・大学院 商学研究科		教授	
研究 テーマ	名称	道路の整備・維持管理費用、環境費用を考慮した受益者負担の仕組みに関する研究				
	政策 領域	[主領域] 1	公募 タイプ			
	[副領域]					
研究経費 （委託金額） （単位：千円）	平成18年度		研究期間			
	8,000		平成18～20年度（3年）			
研究者氏名（研究代表者以外の主な研究者の氏名、所属・役職を記入して下さい。なお、記入欄が足りない場合は適宜追加して下さい。）						
氏名		所属・役職				
竹内 健蔵		東京女子大学・文理学部・教授				
味水 佑毅		高崎経済大学・地域政策学部・専任講師				
大西 博文		財団法人道路経済研究所・常務理事				
梶 太郎		大林道路株式会社・執行役員				
研究の目的・目標 （提案書に記載した研究の目的・目標を簡潔に記入して下さい。） 本研究の目的は、わが国における長期的な道路容量の最適化を目的とした受益者負担の考え方に基づく道路整備の計画論を構築することである。これまでも工学的な意味で最適な幹線道路整備水準は示されてきたが、同水準を長期的に維持、更新していく費用と道路利用者の支払意思額の関連は分析されてこなかった。本研究では、1) 受益者負担問題を税、料金などからなる道路利用者の「負担」を道路の整備・維持管理費用、環境費用などの「費用」に一致させる最適化問題と捉える枠組を構築し、2) 同視点に基づき諸外国で導入されつつある対距離課金をはじめとする税、料金制度の比較、評価を試み、3) 費用・負担の実態の明確化、データベースの作成に基づき、4) シミュレーション分析により道路需要にあわせ道路水準を最適化する計画論を確立することを目指す。						

これまでの研究経過

(研究の進捗状況について、必要に応じて図表等を用いながら、具体的に記入して下さい。また、研究の目的・目標からみた研究計画、実施方法、体制の妥当性についても記入して下さい。)

- 研究の進捗状況について：本年度は、研究メンバーで「1. 研究計画」を検討したのち、「2. 研究枠組みの構築」および「3. 制度の比較分析」と「4. 費用・負担の実証分析」の2項目に関する基礎的研究を行った。
 - 研究枠組みの構築：既存研究のサーベイ等を通じた受益・費用・負担の概念整理、財源調達論の整理、費用・負担の一致指標の作成および長期的な道路容量の最適化計画論の構築
 - 税、料金制度の比較分析：欧米の課金、財源調達制度のサーベイを実施し、特にEUにおける対距離課金額算定式を吟味
 - 費用・負担の実証分析：統計資料の集計、標準断面設定による積算を通じた地域区分別・車線別の標準的な道路事業建設費用の推計、混雑費用を含めた道路平均費用関数の推定（下図）



- 研究計画、実施方法、体制の妥当性について：上記のように本年度は研究計画で予定していた分析作業を実施できた。本研究では、研究メンバーの専門領域に基づき、的確な知識、情報を持ち寄り効果的に研究を実施してきたが、実施した研究会のうち2回は専門家を講師として招き、研究資料を提供いただくとともに、必要な議論を行った。なお、研究メンバーについて、道路経済研究所常務理事の異動に伴い、岡部安水から大西博文への変更があった。

特記事項

(研究で得られた知見、成果、学内外等へのインパクト等、特記すべき事項があれば記入して下さい。また、研究の見通しや進捗についての自己評価も記入して下さい。)

上記のように、本年度は、「１．研究計画」を検討した上で、本研究の大項目である「２．研究枠組みの構築」、「３．税、料金制度の比較分析」および「４．費用・負担の実証分析」に関し、それぞれの基礎となる研究を実施することができた。この研究内容は、学会等でも関心を集め、高く評価されていると考える。

本年度の研究成果を踏まえ、平成19年度以降も所定の目的達成に向け研究を実施していくことは十分可能であると考えている。